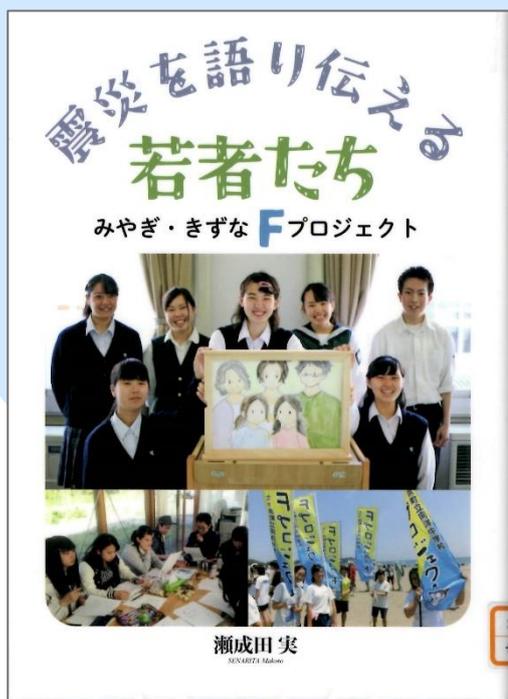


いのちがまんなか

震災を語り伝える若者たち

～みやぎ・きずなFプロジェクト～



3 / 3
(日)



日時：令和6年3月3日(日)午後2時～3時30分

場所：山形市立図書館2階集会室

講師：瀬成田 実 氏 (せなりた・まこと)

きずなFプロジェクト顧問 みやぎ教育相談センター所長

きずなFプロジェクトの皆様

定員：30名程度

申込：山形市立図書館本館 TEL023-624-0822

内容：東日本大震災から13年、いのちの尊さや家族の大切さ、防災・減災のノウハウを学びましょう

講師紹介



瀬成田 実氏 (せなりた・まこと)

きずなFプロジェクト顧問 みやぎ教育相談センター所長

1958年宮城県仙台市生まれ

宮城県内の中学校で社会科教員として38年間教鞭をとる。震災後、宮城県教職員組合書記長として被災校支援に奔走。2015年より七ヶ浜町立向洋中学校で震災学習を行う。立ち上がった震災伝承チーム「Fプロジェクト」(のち「きずなFプロジェクト」に改称)の顧問となる。現在、教え子たちとともに幼稚園児から高校生までを対象とした防災出前授業を行っている。

2022年3月かもがわ出版より「震災を語り伝える若者たち みやぎ・きずなFプロジェクト」発刊

きずなFプロジェクト

Fプロジェクトは、宮城県七ヶ浜町立向洋中学校の1年生が、震災学習後の2016年3月、「町の復興の役に立ちたい」と立ち上げた有志チーム。Fは、ふるさと、復興、futureの3つの頭文字。ビーチクリーン、被災者との交流会、被災地見学などを通して地域に目を開き、語り部活動を始める。

中学卒業後の2018年3月、「きずなFプロジェクト」と改称して活動を継続。現在、21歳となる初代メンバーを中心に16歳までの6学年にわたる20数名が所属。紙芝居を中心とした震災伝承・語り部活動をしている。向洋中以外の出身者4名もメンバーに加わった。

2022年9月には、3.11メモリアルネットワーク基金からの助成で、絵本「みゆうとゆうみ」を作成し、県内のすべての幼稚園に寄贈した



「みゆうとゆうみ

つなみとかぞくのはなし」

きずなFプロジェクト/さく やまもともえの/え

陸前高田市出身の双子姉妹が母と祖母を震災で亡くしたお話。メンバーの実体験に基づく物語。

2019年6月、Fプロメンバーによる手づくりで紙芝居が完成。いのちと家族の大切さを訴える内容。保育所・幼稚園や小中学校等で上演。

2022年8月紙芝居を絵本にする。